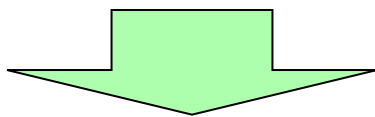


# 直方市(九州・沖縄ブロック)

【計画期間 21年6月～26年3月】

- ・江戸期：商人の要望により長崎街道を城下町(現中心市街地)内へルート変更
- ・明治～：日本有数の産炭地として繁栄
- ・昭和～：石炭産業の衰退、昭和51年に筑豊炭鉱終幕

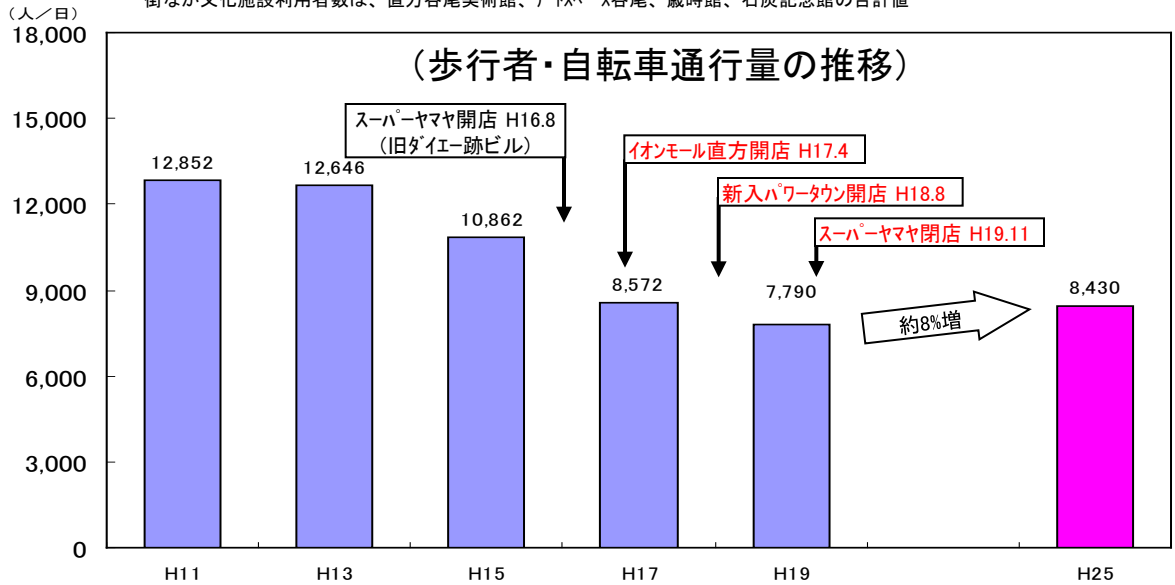
- 郊外大型店の出店、ショッピングセンターの撤退により商業機能低下
- 核家族化の進展により居住人口が減少するとともに高齢化も進展
- 観光振興に資する直方市石炭記念館等の歴史的建造物群も単体運営にとどまり利用者が減少



- 歩行者・自転車通行量の減少  
H11：12,852人/日  
→ H19：7,790人/日 (▲ 39.4%)
- 年間小売販売額  
H9：16,589百万円  
→ H16：13,401百万円 (▲ 19.2%)

目 標	指 標	現況値 (H19)	目標値 (H25)
中心部の都市機能を強化し、利便性を高めることによる賑わいの向上	歩行者・自転車通行量	7,790人/日	8,430人/日
歴史と文化を活かした新たな魅力の発掘による交流人口の増加	街なか文化施設利用者数	41,498人/年	42,400人/年

注) 歩行者・自転車通行量は、5調査地点における平日・休日の合計の平均値  
街なか文化施設利用者数は、直方谷尾美術館、7-トスペース谷尾、歳時館、石炭記念館の合計値



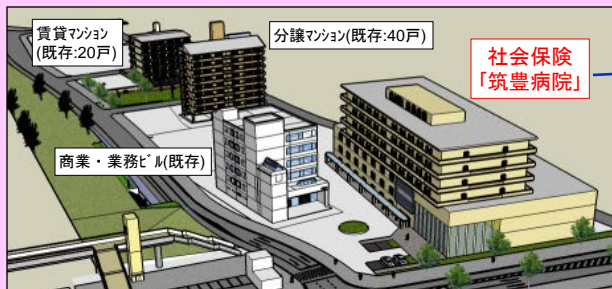
- 総合病院の駅前移転や鉄道・バスの結節強化など都市機能の拡充にあわせた商店街の多彩な取組により商店街を中心とした賑わいの向上を目指す。  
→ 主要事業：①筑豊病院移転事業、②交通結節点改善事業、③“何かある”商店街イベント事業、など
- 歴史的建造物を民間事業者との連携等によりさらに活用し、交流人口の増加を目指す。  
→ 主要事業：④レトロタウン整備事業、⑤民間事業者との共同事業、など

# 直方市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 都市機能強化による賑わいの向上

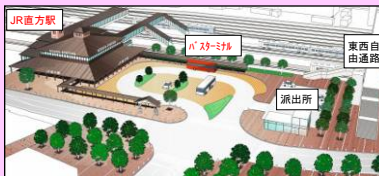
### ① 筑豊病院移転事業等

安心・安全なまちを構築するため、**土地区画整理事業**などを活用し、**総合病院(12科, 206床)**を中心市街地内へ移転させるとともに、**集合(賃貸)・戸建住宅**等も整備。



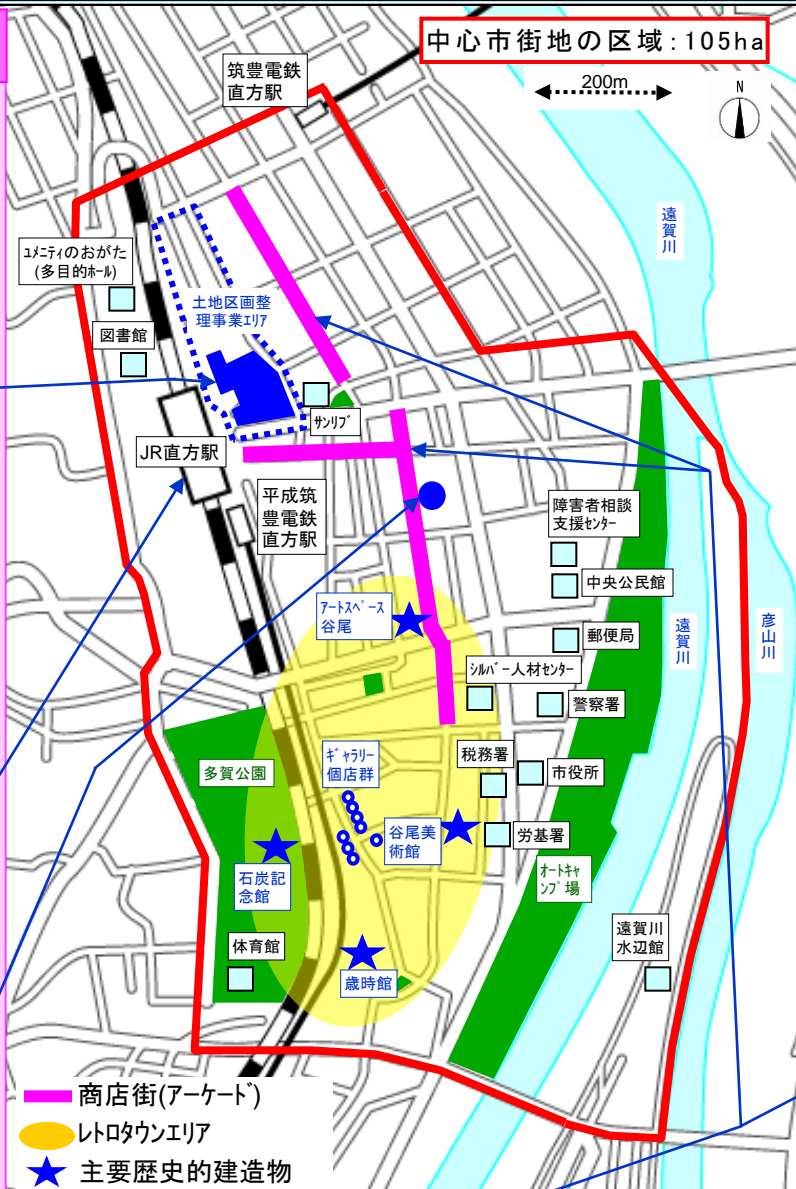
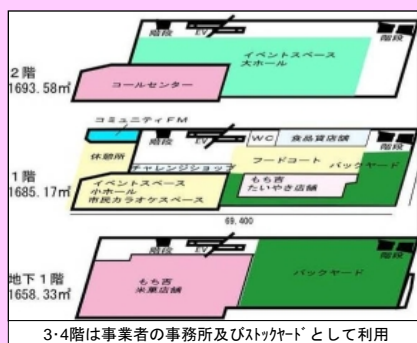
### ② 交通結節点改善事業・JR直方駅建替事業

来街環境の向上を図るため、**JR直方駅**の建替にあわせ駅横へ**JR九州バス**及び**西鉄バス**の路線バスターミナル機能を集約(JR九州バスは上記区画整理事業エリアより移転)するとともに、**バリアフリー**へも対応。



### ○ 空きビル再生事業等

商店街中央の**空きビル(旧ダイエー跡)**を**イベントホール**や**コミュニティFM**を併せ持つ**商業核**として**リニューアル**。



### ○ チャレンジショップ事業

空き店舗を**商工会議所**が一括借上げし、意欲ある**出店希望者**へ**低額賃貸・運営指導**を実施。

## 歴史と文化を活かした 交流人口の増加

### ④ レトロタウン整備事業等

歴史・文化を維持し集客力を高めるため、イトタウン地区に約100施設ある**歴史的建造物群**を**伝統的建造物群保存修理事業**等により**保存、あわせて景観的一体感ある街灯・案内板等**を整備。



### ⑤ 民間事業者との共同事業等

イトタウン内の4文化施設と市外集客のある民間事業者(ギャラリー個店)による**共同割引券の発行**や**ウォークラリー**の開催など**各種サービス**を実施。

### ○ 回遊環境の整備等

「夏まつり」や「産業まつり」など様々なイベントの開催に加え、イトタウンを中心とした街中の回遊性向上のため、**街中回遊マップ**の作成や**人力車**による**タクシー**運行を実施。



### ③ “何かある” 商店街イベント事業

50年続く**毎月5日の「五日市」**を15日・25日にも開催。さらに、**地元高校**と連携した**街なかファッションショー**など、**多彩なイベント**を随時開催。

